

特42

460

教生石

12

館書圖京東

三  
二  
冊

三  
號

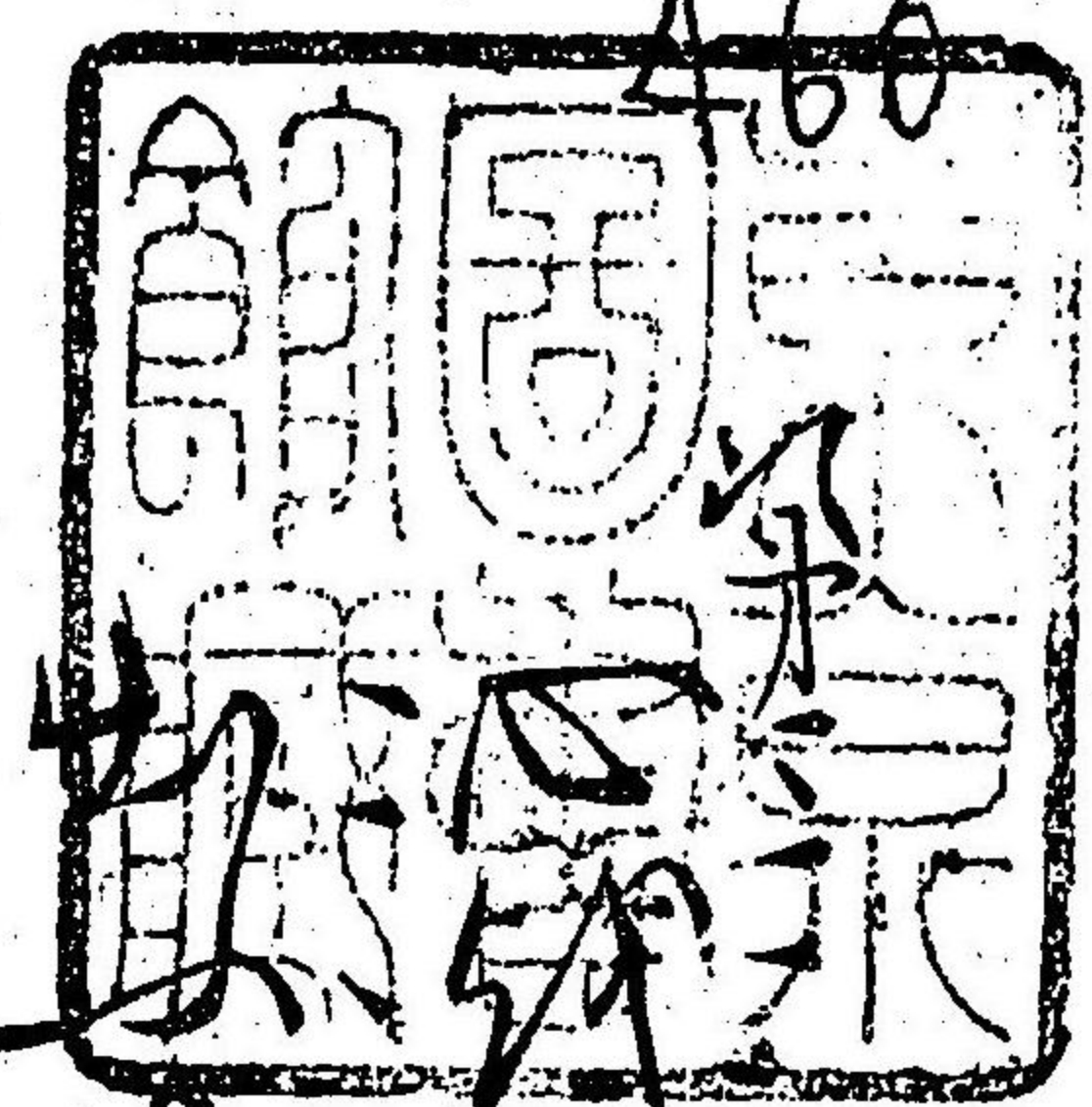
四  
七  
架

函

音  
曲  
類

和  
書  
門





救世石

早白 是く之玄翁といふ道人也

我知識の底を立らるひとちるを  
歎ふ一見可をひらき終り拂子を  
うら振く世よ眼をゆくと此程  
を奥州よひら都よと冬夏















絃の清涼なるよみの秋乃とも恋月  
 まじりて雲の霞の氣をこま  
 し清涼なる吹の空殿の  
 けりやとくもあはれなるあり  
 身よりあはれなる清涼なる照志  
 きれの光大内子備て畫扇の屏

代々の戸圍の衣乃錦あり  
 光のあはれなる月乃  
 あり帝の衣乃あはれなる  
 衣乃あはれなるあはれなる  
 可為なるや王法のあはれなる  
 衣乃あはれなるあはれなる  
 調伏のあはれなる



一しと羨まされども愈よ教ももつる  
 一とくしてまもたすまよこのやよ  
 一あひ如くまの露と清し跡のき也  
 一か様まうく語よはまのあや成  
 一くや流へ入らうとせしむ其吉  
 一の玉もの前どのあひつゝ教甘石を  
 一を魂まうくあり<sup>伴</sup>まもるの累念

一きくくくくくくくくくくくく  
 一鉢をらうくし同く多本鉢と  
 一二度<sup>其</sup>累く<sup>信</sup>あ<sup>信</sup>ま<sup>信</sup>一<sup>信</sup>  
 一笑ひつゝの流るる夕燦の<sup>上</sup>ま<sup>信</sup>く<sup>信</sup>  
 一あまゆきくくくくくくくくく  
 一らん<sup>其</sup>夕<sup>信</sup>闇の<sup>信</sup>あ<sup>信</sup>の<sup>信</sup>ま<sup>信</sup>れと<sup>信</sup>此<sup>信</sup>夜<sup>信</sup>  
 一あ<sup>信</sup>く<sup>信</sup>燈<sup>信</sup>の<sup>信</sup>我<sup>信</sup>影<sup>信</sup>ま<sup>信</sup>う<sup>信</sup>く<sup>信</sup>思<sup>信</sup>を<sup>信</sup>し











打ちあつた雲井と翔り海山を  
翻く此所よりねとを  
使つてみうら介上総の介  
二人論者をかたきけ  
仁孝者と返答をよめ執をき  
て野干き女よぬれの大まき  
ズーとして百自心を射るき

是は道物の始とや  
東より教方誘ふ好をなめて  
草をとりて持もるや  
あつた系は顯れあつた  
道つまのちうりよつき  
射あつた見時命をい  
奈のつ原の露と消てもなを執心

放生



此野に於て... 報す石と云つて... 多し多し... 此後... 事あり... 石あり... 冠律... 九尾

右之本者觀世大夫織部  
章句真本令放行畢

正徳六丙申歲弥生

天保十一庚子歲孟春改正再板

皇都二条通御幸町西入町

山本長兵衛





明治十六年十月廿九日  
同十七年一月  
翻刻御届  
刺成發兌

翻刻人

京都府平民

上京區第三組上白土町廿番戸

本田市次郎

定價金七錢

# 京都專賣書林

北村善兵衛  
風月庄左衛門  
石田忠兵衛  
町田與三吉  
佐糸總四郎  
細川清助  
辻本九兵衛  
福井孝太郎  
竹岡文助  
福井源次郎

村上勘兵衛  
辻本定次郎  
須磨勘兵衛  
遠藤平左衛門  
大谷仁兵衛  
杉本甚助  
大谷玄之助  
明田嘉七  
笹田弥兵衛  
田中治兵衛

菱澤重兵衛  
内藤彦一  
川勝徳次郎  
今井七良兵衛  
藤井淺次郎  
近藤太十郎  
澤田友五郎  
西村七兵衛  
西村九良右衛門  
永田調兵衛



